

令和3年6月16日

学校法人三幸学園
名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校
校長 紅谷 尚幹 殿

学校関係者評価委員会
委員長 浅野 栄介

学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 浅野栄介（有限会社太閤オフィスサービス 代表取締役社長）
- ② 酒井光里（株式会社 nano）
- ③ 玉田鷹士（名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校 講師）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年6月16日（会場 名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校 401教室）

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和2年度 学校法人 三幸学園 名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小久保 和紀

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 浅野 栄介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

○生徒に対するの方向性(見逃さない教育・継続徹底)

- ・出席の向上、授業態度など学ぶ環境を整えていく
⇒「学ぶ」ことに対して、対面・同時双方向・オンデマンドと状況の変化によって臨機応変に対応していった。
- ・資格取得率の減少
⇒コロナ禍に於いて対面授業減少に伴い、対策頻度の影響が出たことによって、全ての資格取得率向上には至らなかった。
- ・分散登校における学習スタイルを習慣にする
⇒在宅学習による意欲低下が懸念された。出席状況も例年と比較すると思わしくなく、一人で学ぶ習慣がつかない生徒は担任との面談も実施していったが、なかなか改善されなかった。

○授業アンケートの向上

- ・半期に一度、生徒より授業についてのアンケートを実施しているが、前期よりも後期の方が向上していた。

○退学率の低減

- ・2.5%マイナスの退学率低減となった。
コロナ禍の中、在宅学習と対面学習に分かれ1年間、分散登校を実施。

○就職率の向上

- ・1.8%プラスの就職率向上となった。(98.1%)
コロナ禍の中、就職率は上向いたが業界内の就職率は5.5%のマイナスとなった。(81.6%)

○コロナ禍に於ける授業形態の変更

- ・コロナ禍における分散登校での授業スタイルを確立
- ・消毒、検温、換気の徹底をし、コロナ感染拡大防止に取り組んだ
- ・コロナ感染者が出た際、保健所との連携により学校の対応を迅速に実施

② 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：コロナ禍で卒業生前払いクーポン支援制度(10万円)は、パーソナルトレーナーとして運動指導が行えず集客が難しい状況だったため、非常に有難かった。

オンデマンドという課題に対し生徒が一人で時間を作って実施する習慣がない。そういった生徒を対象としてはいないので生徒の学習意欲を下げてしまった部分があったように感じる。

(スポーツトレーナー科・スポーツインストラクター科)「動作分析とエクササイズ処方」のオンデマンドの内容が、教員が勉強になるような内容になっていたため、卒業生に向けてセミナー等で発信していただけると良い教材となる。生徒にとっては専門用語が羅列していたのでレベルが高いと感じた。オンデマンド教材のレベルの確認や対面時のフォローが必要であった。

安井委員：生徒のオンデマンドの習熟度はどうか？

玉田委員：ノートをとって勉強している生徒が6割程度いる。しかし内容について生徒に確認をしても「分かりません」という回答が8割程度いるので、対面時にオンデマンドを振り返る時間を設けて、授業を進めるので授業内容が収縮されている状況である。

小久保委員：内容については1年生で触れているものなのか？

玉田委員：初見の内容が多かった。例えば「投球動作」の説明中に専門用語が使用されており、その専門用語が今までに学んでいないもののため、理解が難しい場面があった。

小久保委員：オンデマンド教材を使用する対象者に向けて検討が必要だと感じた。昨年度は至急の作成だったため、最終確認まで厳しい状況ではあった。本校で講師の先生に作成していただいたオンデマンド教材もあり、内容がシラバスとの差異がないか確認をしていた。作成者によって使用する言葉の相違があった可能性がある。

玉田委員：シラバスも大まかな内容となっているので、細分化した際に各校・担当教員によってレベルに違いがあった。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・新型コロナウイルスの影響により、入学前の保護者説明会の実施が出来ず、文書にて学校の理念・目的・人材育成像などは周知しているが、対面での周知では無い事から、浸透にまでは至らない。
- ・もとより変化の激しい業界である上に、新型コロナウイルス感染予防に対応したトレンド、業界のニーズの変化を取れしておく必要がある。ただ、変化させるもの変化させないもの見極めをすることが必要と感じる。
- ・直接的なコミュニケーションはとれなかったが、実施した保護者連携としては、各担任から保護者へ電話がけ、年3回の郵送物の発送を行っている。
- ・キャリアの浅い担任も多いため、生徒及び保護者に周知・浸透させていくためには、教育理念・人材育成像等を職員が理解し、伝えていくことが必要である。

② 今後の改善方策

- ・オンデマンド(録画)にて発信することにより視覚的・聴覚的に伝えることで保護者へ周知につなげる。
- ・年に数回実施する、教育課程編成委員会の各委員より、業界のニーズ・トレンドを確認する事と併せて、生徒に向けた業界セミナー等の機会にも、現在の業界の求めるものを確認していく。
- ・今後は with コロナを意識しながら、保護者連携を図る施策を検討していく必要がある。

③ 特記事項

- ・入学後に行う全生徒対象の研修プログラムでは、学校の理念・目的・育成人材像は周知し、そこに向かうべく、個々の目標設定と管理を徹底している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員：オンライン等で保護者とも繋がれるようになると便利であり、伝えやすいと考える。

安井委員：保護者の方も仕事があるため、保護者連絡が夕方以降になってしまい、なかなか時間が取れないことが難題となっている。今年度は保護者説明会を録画し、話者と説明資料を映しながら説明をし、昨年度よりは説得力が増したと感じている。

浅野委員：早急にとれる対策は難しいので、今の取り組みを継続していくことが必要である。

小久保委員：様々な方法を想定して対応できる体制を今後も考えておかなければならない。コロナ禍において機器も含め様々な事態に対応できる術は身に付いたと感じる。保護者会では今まで全員集まり対面のみの実施だったが、遠方より来る方についてはオンラインでも対応できるようになる等、発展しやすくなったと前向きに考えている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・コロナ禍の中、1年を通して授業を同時双方向授業もしくはオンデマンド教材(録画)にて実施するようになり、情報システムの活用・メディアの活用などは稼働できていたが、伝達事項などの「閲覧数」を確認すると未読のまま放置も見られたので、増やす取り組みが必要である。
- ・様々なシステムが導入され、業務も効率化が進められているが活用しきれていない。
- ・新型コロナウイルスの影響で、導入されたものが1年間で一気に整備された印象がある。ただ、教員全体のITリテラシーにはまだまだ課題があり、様々な情報システムやIT技術にアンテナを張ることが必要だと感じる。

② 今後の改善方策

- ・閲覧履歴を確認して、担任から生徒、教員から講師などへ促すと共に確認する習慣をつけさせる。
- ・システム活用の好事例の共有等、積極的な活用につながる情報を共有していく。
- ・今後、常勤職員以外に、講師陣とも連携を図れるよう「teams」を導入する予定

③ 特記事項

- ・SANKO GATEによる情報の一本化。
- ・情報伝達の頻度を上げ、活用する機会を増やす取り組みを実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員:毎年改善・向上していると感じる。教員と講師との共有がSANKO GATEを通じて増えたため、より連携がスムーズになったと感じる。

安井委員:全体会議も各学科に分かれ実施する流れが常用してきたので、より話す機会が増えた。

酒井委員:SANKO GATEで情報が常に更新されていくので、外部講師としてコロナ対策等も分かり安心している。しかし、SANKO GATEの閲覧がまだ浸透していないので身近な人同士で声をかけあえるとより閲覧してもらえると考える。

浅野委員:デジタル化がより必要になってくる時代だと思う。システムを使用しているのでさらなる活用に期待をしている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・若い教員、年次の低い教員、現場経験の少ない教員が多いため、担任指導にばらつきがあり、決められた指導ができていないことが課題である。
- ・副担任制度を取り入れたが、うまく機能しない面があった。副担任としての立ち位置や役割などを明確に記して、担任のサポートにあたりたい。
- ・メディア授業の導入にあたり、対面授業に比べて教育効果が劣っていないか、生徒のモチベーションが継続的に保たれているのかが不安要素である。
- ・資格取得(JATI・健康運動実践指導者)に向けた取り組みはコロナ禍の中、予定通りの授業や補講などの対応ができず、対面での授業が実施できなかったことで合格率向上にはつながらなかった。

② 今後の改善方策

- ・定例会議にてベテラン教員より担任力向上のための研修を実施していく。
- ・授業アンケートを元に、自らの振り返りを実施し次年度に活かせるように OJT や副担任とも連携を図って強化していく。
- ・対面授業内でメディア授業の補足や資格対策の補講を実施していく。
- ・現場を知る意味でも現場からの声を生徒に伝えていく必要があるため、実習先や卒業生の就職先、講師との連

携を大切にしていく。

③ 特記事項

・昨年度課題であった、各アンケート(授業アンケート、クラスアンケート、担任アンケート)の評価が上がった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員:資格取得に関してスポーツ業界で勤めている側からすると「JATI 認定トレーニング指導者」「健康運動実践指導者」の取得は当たり前と考えている人が多いので、本校での合格率が低いと感じる。

安井委員:動機づけ・意識付けの際に仕事上での必要性を伝える必要がある。伝達力に担任の差が出ないように検討している。

玉田委員:勉強する場所・環境がないので学習意欲が高い生徒、卒業生にとって自主勉強する環境があると助かる。学校開放、オンライン等の授業外でのサポートがあると有難い。

酒井委員:「JATI」の実技については先生たちが直接伝える必要があるのが難しい部分があるが、筆記は自主勉強が重要である。

雇用する側の視点で考えると、資格を取得していると基礎知識があると捉え、信頼度が高まる。講師からも必要性を伝えた方が生徒の意識が高まるので伝えていく。担任から必要性を伝えるべきであるが、資格を持っていない教員から伝えるに難しい部分はあると思うので、資格取得者から伝える等の工夫は必要である。

教員だけでなく生徒でもクラス全体での向上心をあげるためにリーダーを作るなど施策があるといい。

オンライン勉強会等も取り入れていけると、教える側も知識をアウトプットできるし、学ぶ側も知識が深まり、学ぶ環境が増えると考えられる。

小久保委員:技術の継承・維持はどのようにしているのか？

浅野委員:一度教育したものを定期的に復習・確認・フォローをしていき、維持できるようにしている。ベースアップはなかなか難しい部分がある。会議だけでは伝わらないこともあるので定期的に話し合い、現場に同行する等工夫をしている。

小久保:現場に行くと体感することが少ないので様々な現場へ出向き、体感する必要がある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率は、98.1%(業界内 81.6%)となり、昨年の 96.3%を上回ったが業界内の就職率が昨年の 87.1%を下回ってしまったことは課題となる。会社説明会や面接などがほぼオンラインとなり、戸惑いや不安も重なりモチベーションを保つことが難しかった。
- ・資格取得に向けて取り組んできたが、目標の数値を達成できなかった。統一模試との連動・資格を取得することに関しての意味付けの強化・早期動機付けなど合格率を上げるための施策は課題となった。
- ・対面授業の機会が減ったことに加え、資格取得に向けた意識づけを十分に行う事が出来ず、資格取得に向けた意識の向上を図れず、期待していたほどの合格率には届かなかった。
- ・退学率低減に向け、昨年度より退学率を改善することができた。だが、目標としていた 5%にはとどかず、早期のタイミングで面談の実施、遅刻・欠席者へのこまめな連絡、長期休暇前の意識づけなど様々な対策を行っていたが、多様な考え方を持つ生徒が多く、より一人一人にあった個別対応がまだまだ足りないという点がある。
- ・コロナ禍で業界内求人減少が大きく就職内定に響いた。

② 今後の改善方策

- ・会議にて退学防止策を検討し、毎日のクラス状況(出欠席状況)を把握すると共に早めのアプローチを心掛けていく。目標退学率を5%以下にする。
- ・就職は会社説明会の促進、昨年度の反省を生かしたオンラインの活用を踏まえて早めのアプローチをしていき、年内の就職率 80%以上を目指していく。
- ・早期の資格取得に向けた動機付けの実施。各クラスのホームルーム、資格取得の為の関連授業において、資格の概要説明、資格の優位性を伝達し早期から資格取得に向けて意識向上を行う。
- ・学園本部より発信されている、「退学を検討する時期」を意識し、対策を講じている。
- ・リゾスポラボラトリー(卒業生と在校生との交流会)の活用によって卒業後でも学校の教育活動に参加できる取り組みを継続的に行っていく。
- ・卒業生にキャリアサポートの活用、同窓会 LINKなどを活用していけるように促す。

③ 特記事項

- ・退学率に関しては、外的要因は少なからず考えられるが、低減に繋がった。

退学率⇒2019 年度： 7.9%

2020 年度： 5.4%

コロナ禍の中、分散登校とオンデマンド授業(録画)の1年となり、クラス全体としての稼働はなかった。その為、

理想の学校生活とのギャップの中、一人の時間が増えて考え直す時間を与えてしまった。退学率自体は減っているが、早めの面談や保護者連絡を実施することで防止できることもあった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：フィットネス業界の落ち込み、雇用者が減少している中で就職率が上がったのは取り組み方がよくなったと感じる。

業界的に他業種がフィットネス業界に入ってくることも多いので、他業種に卒業生がいることで今後フィットネスと他業種の連携が取れるので心強い。他業種に行ったのはマイナスではなく、プラスだとも捉えている。

安井委員：就職率の向上から一つの懸念事項で本人が望むところに妥協せず就職しているのか検討していく必要がある。本人が納得して就職し、離職に繋がらないように数値では見えない部分も考える必要がある。

酒井委員：スポーツについて学んでいるが、コロナ禍で今後の活用法や仕事等、将来について不安が高まっていると感じる。卒業生と在校生の「卒業生講演会」等の交流の機会を増やすことで生徒の安心感を得られると思う。

「卒業生講演会」は1年生だけではなく2年生の就職意欲が高まり、将来を意識したタイミングで聞けるとより具体的に考えることが出来、1年生ではなかった感じ方や学びがあると考ええる。

浅野委員：専門学校は就職率をみられるので就職率が高いのは素晴らしい。

他業種に行くのは良いことだと思う。異業種交流会等で他業種の話しを聞く機会があるが、全く関わりがない人よりも同じ分野で学んだことがある人との交流のほうがより深まりやすいと感じる。

フィットネス業界でもフランチャイズが増えているのでコラボレーションが出来るなど可能性が広がると思うので、学んだことと違う就職先となっても本人が希望していれば良いことだと思う。

小久保委員：キャリア形成については「リソースラボラトリー」が担っていくと期待している。卒業生が積極的に在校生のために活動してもらうのは名古屋のみであり非常に有難いことである。

「リソースラボラトリー」以外にも「卒業生講演会」やトレーナー関係では実習コーディネーターを中心に卒業生を呼んで様々な場面で関わっている。これが世代を超えて体系的にまとめていくとより良いキャリア形成が発展すると感じる。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・保護者との連携は、半期ごとのお知らせと5月の挨拶連絡のみとなっている。就職学年は将来について、進級学年は学校の様子で特記すべきことは随時連絡を入れてコミュニケーションが図れるとよい。
- ・卒業生へのキャリア支援体制についてはまだ課題が残るので、SNS・WEBを積極的に活用していく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・在籍時より卒業生サイトがあることの告知を強化し、有効活用していく。
- ・卒業生 Facebook・同窓会Linkの活用を積極的に行っていく。
- ・早期の資格取得に向けた動機付けの実施。各クラスのホームルーム、資格取得の為の関連授業において、資格の概要説明、資格の優位性を伝達し早期から資格取得に向けて意識向上を行う。

③ 特記事項

- ・就職エリア担当と担任とで、就職サポートを実施している。
 - ・カウンセラーの設置、生徒の希望により定期的に話をすることができる環境がある。
 - ・学校生活に不安のある生徒には、特別のプログラムを用意しサポートする体制を整えている。
 - ・生徒の生活環境への支援としては、提携している寮等の案内がある。
 - ・高校との連携では、職業紹介のガイダンス等で協力させていただいている。
 - ・退学率に関しては、外的要因は少なからず考えられるが、低減に繋がった。
 - ・コロナ禍の中、卒業生への支援として、前払いクーポンの購入にて支援を実施した。
 - ・中途退学者への支援としては、面談を定期的実施することで思い留まったり、退学防止につながっている。
- また、退学アンケートを実施して改善に努めている。
- ・昨年度、コロナウイルスの影響に伴い、卒業後独立をしている卒業生に対し、支援を行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：年々、卒業生が関わる勉強会やトレーナー活動等で在校生と卒業生が関わる機会が増えているので今後も活用していきたい。

小久保委員：北京オリンピック選手の朝原様と栄養コンシェルジュ協会の岩崎様のセミナーを実施した。このようなセミナーを年 4、5 回卒業生に向けても発信していきたいので、卒業生の中でも各コミュニティを活用して広げていきたい。

酒井委員：卒業したら卒業生との関わりが終了してしまうことも有るので、卒業生同士のコミュニティも必要だと感じた。セミナーも拝見し、面白かったのもっと広める活動をしていきたい。

小久保委員：同窓会を 10 年に一度実施しているので次回、2027 年度実施予定の 30 周年があるのでぜひ参加いただきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・災害を想定した避難訓練の内容や頻度ならびに、安全管理の観点や災害の意識強化。
- ・在籍者数が年々増加しているため、今後は学習環境を担保できるよう施設を準備することも視野に入れる。
- ・コロナ感染予防対策として、ガイドラインをもとに生徒へ周知し続けることが必要不可欠である。
- ・災害を想定した避難訓練の内容や頻度、ならびに、安全管理の観点や災害の意識強化。
- ・実習先の確保は問題なくできているが、実習期間でリタイアしてしまう生徒がいることや、長期の実習になった際、モチベーションを保つことができず諦めてしまう生徒が若干名いることの対応。
- ・実習が選択となったため、選択しなかった生徒の経験値に大きな差が出てしまう懸念点がある。

② 今後の改善方策

- ・万が一の事態に備え非難経路の確保については常日頃から点検を行う。また、ホームルームにて生徒へ避難訓練の意義や必要性を伝達する。
- ・教員による校内外の巡回を重視し、クラス内での対面の昼食に配慮する。
- ・職員に対する非難訓練を実施し、安全面への意識を高めていく。また万が一の事態に備え非難経路の確保については常日頃から点検を行う。また、ホームルームにて生徒へ避難訓練の意義や必要性を伝達する。
- ・実習については、開始前にオリエンテーションを行い、様々な事例を事前に伝え意識付けを強化していく。
- ・昨年度より各学科の実習が任意となり、単位不認定者は減る結果となっているが、現場経験値が少なくなることが予想され、その部分については課題であると感じるため、様々外部と関わる機会を設ける必要がある。
- ・実習に参加しなくてもボランティア(サービスマン)にてスポーツ現場を知る機会を増やしていく。
- ・施設先に本校のパンフレットを渡し、実習の目的などを体系化して企業様に説明していく。

③ 特記事項

- ・防災・安全管理において、非常食・飲料水などの備蓄品や職員室内防災用品を設置している。
- ・一斉情報伝達の為のデジタルサイネージの活用。
- ・コロナウィルスの影響により、海外研修は中止となった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

酒井委員：授業中の手荷物が机の横に置いているので避難経路の妨げになってしまう可能性がある。現在、教室後ろの荷物置き場をなくしているので、緊急時に気を付ける必要がある。

小久保委員：コロナ禍で三蜜をさけるために荷物置き場をなくしているが、今後検討していく。

玉田委員：清掃が少しずつ徹底されて綺麗になってきていると感じる。気になる点として授業が続く場合に食事をする教室・時間がなく、食べていないまたは廊下で食べている生徒も見受けられる。栄養摂取面・衛生面として気になる部分はある。

小久保委員：長時間にわたり授業が続くクラスに関しては食事時間と教室を確保している。食事を摂るタイミ

ングと施設割が相応しくない可能性があるので、今後検討をしていく。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・A0 入試に於いて高校によってはエントリーが9月以降になる学校もあるので、お互いが理解してエントリーできるような配慮が必要である。
- ・コロナ禍に於いて来校だけでは無く、オンラインでも学校の様子をお届け出来るように、オンライン・オンデマンドの学校見学の準備を整備していく。
- ・高校側に対して学校教育に理解をいただき、業界や専門学校の状況を知っていただく。また、18 歳人口の減少に伴い、募集対象の幅を広げ生徒募集を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・オンラインオープンキャンパスの強化。
- ・特待生入試に向けた、評価基準の統一認識。
- ・現在行っている、オンラインオープンキャンパス、オンライン個別相談会の内容をより高校生、再進学希望者の方の求める内容に変更していく。
- ・With コロナ対策として、対面とオンラインを併用した募集活動が一般化しているため、様々なコンテンツから募集活動ができるよう施策を打っていく。
- ・若手教員が多いため、業界理解が必要となる。

③ 特記事項

- ・入学前のイメージと入学後のギャップを持たない情報伝達の徹底。
- ・入学にあたり、納得してから入学してもらえるように学科によっては特別に学科説明会を実施し、授業内容や資格取得までに至る説明会を実施している。

③ 学校関係者評価委員会コメント

玉田委員：自身が卒業生なので入学前と入学後のギャップはあった。意欲が高い生徒ばかりではないのでクラスメイトとの意識の違いがあった。また授業内容についてもっと専門性が高いと考えていた。生徒に寄り添う教育場面が多かったのも、物足りないと感じることもあった。

酒井委員：教育内容に関しては座学が多いとは感じなかった。教室の場所的に先輩や後輩とのコミュニケーションがとりにくい部分はあった。

安井委員：アスレティックトレーナー科についてはギャップが大きく感じられる可能性があるため、入学前のアスレティックトレーナー科説明会を実施し、3 年間やりきること・アスレティックトレーナー資格について難しさなど伝達し、納得して入学してもらい、資格取得向上・モチベーションの高い生徒がメインになるようにしている。

小久保：オンラインオープンキャンパスで、実際の現場をオンラインでつなげて活動・活躍している様子を直接高校生とつなげてお話しする機会を設けたいので協力してほしい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について継続して徹底していく必要がある。

② 今後の改善方策

・現時点で問題になるようなことは起きていないが、継続して啓蒙活動を行う必要がある。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

- ・幼児向けの体操教室を実施し、授業の中で子どもと関わりながら体育的活動を学んでいる。（定期開催）
- ・次年度から近隣にオープンするイオンプロジェクトとして、地域貢献を実施していく予定。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

小久保委員：イオンプロジェクト等、毎月2回程度姉妹校も含めて連携していく予定である。SDGs等も踏まえ、ボランティア等で地域貢献する機会を生徒へ設けていきたい。何か提案があれば教えてほしい

玉田委員：生涯学習指導センターなどで高齢者指導を行っている。その際に警察官がきて詐欺について高齢者に伝える場面を設けたいが、集まったの講演等が難しいので、会場へ来れない高齢者への詐欺防止を伝達する活動が警察からは求められている。

コロナ禍で運動出来ない人が増えているので、コロナが落ち着いたタイミングで運動指導を伝えたり、運動を出来る場が求められている。

小久保委員：高齢者向けのワクチン接種のボランティア等提案があったが、学校として生徒以外の複数の人を受け入れることは難しい。協力したくても難しい場面があるが、今後も検討していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果は概ね適正であると評価をいただいた。コロナウィルス感染症の影響を受けながらも、授業アンケートの向上、退学率の低減、就職率の向上など結果は残すことができたが、就職については年内(12月末まで)の内定率が例年に比べ20%減となっていた。希望先の求人がなかったり、採用試験が不合格になってしまい、希望していた就職先から内定がもらえず妥協して就職先を決めてしまったことも懸念される。就職させることが目的とならず、生徒が希望する就職先から内定がもらえるようにサポートを強化していきたい。

また、企業様から「コミュニケーション能力という即戦力」となる生徒がほしいということも聞いたので、「技能と心の調和」を大切に、知識・技術だけでなく人間性を育んでいける取り組みを今後も継続していきたい。